

大人になる君たちに伝えたい

～命と性のメッセージ～



平成30年7月17日保健だより 2年生号

7月6日（金）に瀧澤ミチ子さんを講師に「性教育講演会」が行われました。講演会后感想の一部を紹介します。

講演内容

- I かけがえのない命の誕生を学ぼう
- II 命をつくれるようになったあなた！体と心を学ぼう
- III 性について考えよう
- IV LGBTについて学ぼう

「命」というものは、ただあるのではなくて、奇跡のように誕生して、今生きていることが、すごいことなんだと考えました。

交際する時には、正しい性行動をしないと、相手の心も体も傷つけ、特に心の傷は、一生消えないものとなるんだと思いました。だから気をつけたいです。

世の中には様々な障がいをもって生まれてくる人がいたり、病気の人もいたりして、その人と共に、何の壁もなく生きていくということが大切だと思いました。

宮越由貴奈さんの詞は「命ある限り」という曲を聞いたので、2回目でした。生きたいのに生きることができない人もいて、生きられるのに生きたくない人もいて、自分は生きているので辛いことや苦しいことがあってもがんばろうと思います。

むやみに、自分と相手が両思いで付き合っているからといって、何でもしていいわけではないと改めて学んだ。

姿、顔、能力、性別、どの家に生まれるか、何一つ選べないから、どの命も平等でなければいけないと知った。

「愛」というのは、これから生まれてくる赤ちゃんの命に責任をもつこと。自分の体、相手の体を考えて日常生活を送る。

分かったことは、何が何でもイジメをしている人が100%悪いということです。

人工妊娠中絶は年間34万件で、中絶を受けていれば私はいないことで、産むことを決めてくれた親に今まで感じたことのない感謝がわきました。

亡くなってしまった人が書いた詩が、胸をしめつけてくる感覚がありました。私は心臓がつかれるまで生きたいと思いました。

健康に生きていられるのは当たり前ではない。健康で生まれてこなかった子もいる。そういうことを理解して、もし車いす等にのっている人にも親切にしてあげようと思った。

「みんな、生まれてきて、息をしているだけで100点満点」という言葉が一番心に残った。今ある命を大切に一瞬一瞬大切に生きていきたい。

命はつながっていて、自分を心配している人がいるので、勝手に死なないことを知った。

世界には、異性のことを好きになるのではなく、同性のことを好きな人がいることを認識して、そういう人を傷つけないようにしたい。

いやなことがあっても、生きていたら必ずいいことがあると聞いたから、何があっても生きていようと思いました。

今まで会った人に出会えたのは奇跡だし、生まれてきても、病気で生まれてすぐ死んでしまう人もいるから、今自分たちが生きているのはすごい奇跡だと思った。いじめなどされて自殺してしまった人の命はすごくもったいないと思った。

気をつけようと思ったのは「責任ある行動をする」ということです。今、自分はもう大人の体に成長していると分かっている。だから簡単に「YES」の判断をせずに、ストップする心もち「NO」と言える人になりたいと思う。

人はこの世にたくさんいるけど、それも全部奇跡なんだと気付かされた。赤ちゃんを捨ててしまうのはすごく簡単なことだから、大切にしなきゃと思った。その命に違う病気とか、しょうがいとかがプレゼントされただけで、いじめ、差別がおこるのも、本当におかしいと思う。

私たちは0.1mmからスタートし、運良く生まれることができた命だと自信をもって生きていきたい。

「幸せの性」とは心の人間関係ということで、嫌なことは嫌と言い合えることだというのが分かった。

私はよくTVとかで、手術をして女になった人や男になった人など見ますが、そういうのって絶対最初とはまどいなどがおこったり、大変だったなーとよく思います。日本は差別がとても多い国で、そういう人たちでも誰でも平和に生きられる世界がいつかきっとくると願っています。

宮越由貴奈さんの詩「命」を聞き驚きました。輝瞳祭の候補曲「命ある限り」だったからです。由貴奈さんの命が、このように命を絶とうとしている人や、差別してしまった人へのメッセージとなっている所に感動しました。命の尊さ、他人を尊重することの大切さを学びました。教わったことを大切に心に留めておこうと思います。

一人一人がそれぞれお話を受け止め、自分の心を見つめた言葉が伝わってきました。

まっすぐで柔らかな皆さんの心に感動しました。

